

第109回 アメリカ独立革命②

1 独立戦争の開始

- 1773年の（ ）をきっかけに、イギリス本国と植民地との対立が避けられない状況となった。
- 1774年、植民地側は（ ）に集まり、第1回（ ）を開催して対応を話しあった。
- イギリス本国への抗議を採択し、通商を断絶して自治の尊重を要求した。



パトリック=ヘンリ
イギリス本国との戦争を強く主張した。

- 1775年、パトリック=ヘンリが、「自由か死か」の有名な演説を行った。
- 独立戦争への気運が高まっていった。
- 1775年、ボストン近郊の（ ）と（ ）で武力衝突が発生し、ついに（ ）が開始された。
- 第2回大陸会議で、（ ）が最高司令官に任命された。



第1回大陸会議

中央で立っているのは、ワシントン。イギリスから課税を拒否し、植民地側の団結を示した。なおジョージアだけは参加しなかった。



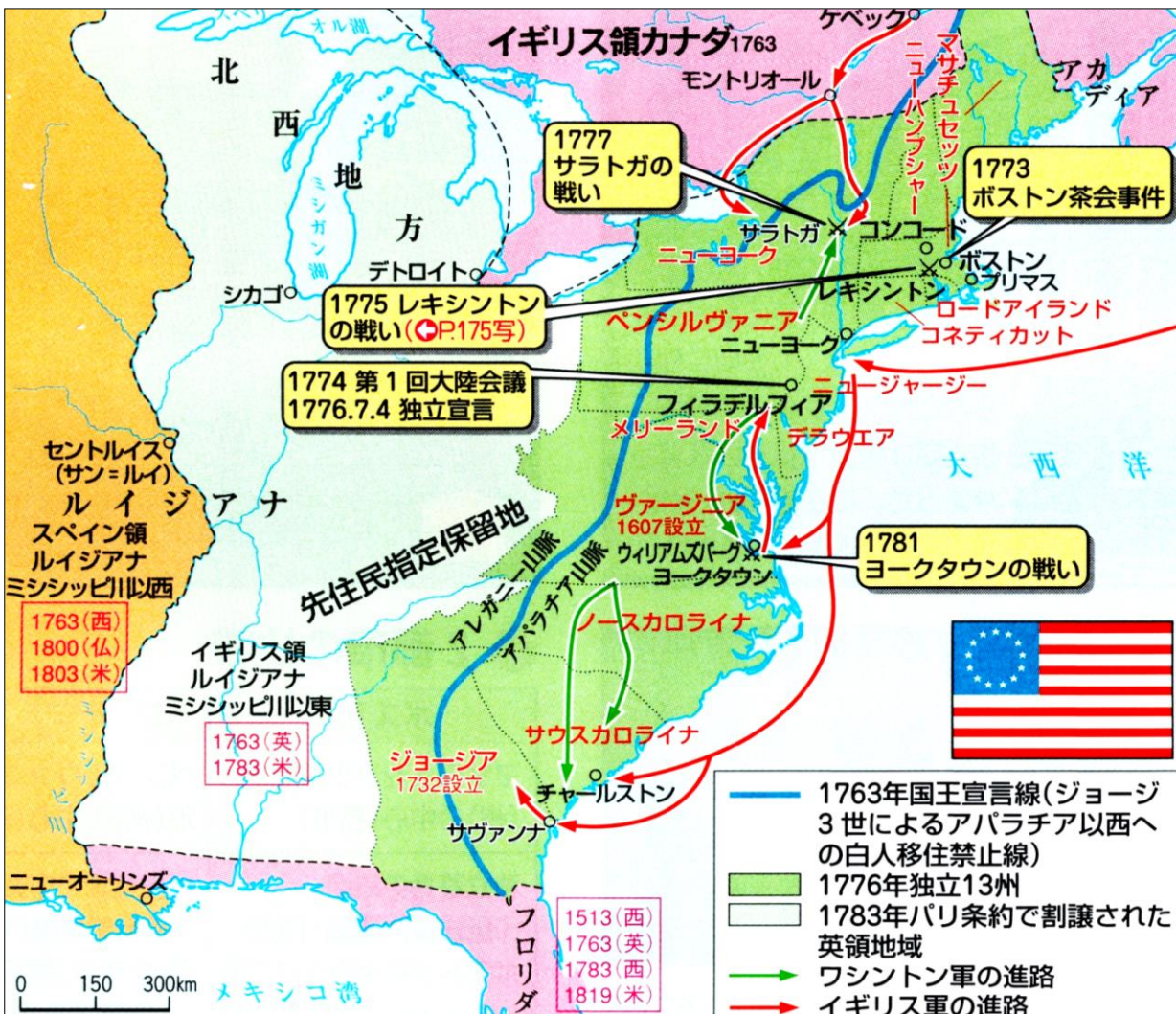
ミニットマンの像

レキシントンの広場に建っている。ミニットマンとは、「1分で戦闘準備ができる」と言われた民兵のことである。独立戦争の象徴的存在。



ワシントン

植民地軍の総司令官となり、後に初代大統領となった。現在は1\$紙幣の肖像になっている。



<植民地の世論>

・初期の段階では、植民地の全員が独立を支持していたわけではなかった。

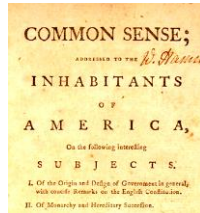
- (1) () …アメリカの独立を推し進め、独立戦争を支持した。
- (2) () …イギリス国王に忠誠を誓い、独立に反対した。
- (3) 中立派 …植民地とイギリス本国の和解を願った。

・しかし 1776 年 1 月、() の『 』が出版されると、世論は一気に独立へと傾いていった。



トマス=ペイン

イギリス生まれであり、フランクリンと知り合ってアメリカに渡った。『コモン=センス』を書いた後はフランスに渡り、国民公会の議員も務めた。



『コモン=センス』

トマス=ペインの『コモン=センス』は、やさしい文章で独立を訴えた。わずか3ヶ月で12万部の大ベストセラーとなった。



映画『パトリオット』

息子をイギリス軍に殺された父が、アメリカ独立のために戦う姿を描いた作品。主演のメル=ギブソンが強すぎる。タイトルの意味はもうわかりますよね？

2 アメリカ独立宣言

- ・() 年 7 月 4 日、フィラデルフィアで() を中心に、フランクリンらが補筆して起草した() が発表された。
※この日は現在、アメリカ合衆国の独立記念日となっている。

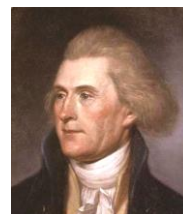
<独立宣言の内容>

- (1) 「すべての人は平等に造られ、造化の神によって、一定の譲ることのできない権利を与えられていること。その中には生命、自由、そして幸福の追求がふくまれていること。」
- (2) 「これらの権利を確保するために、人類の間に政府がつくられ、その正統な権力は被支配者の同意にもとづかねばならないこと」
- (3) 「もしどんな形の政府であってもこれらの目的を破壊するものになった場合には、その政府を改革しあるいは廃止して人民の安全と幸福をもたらしにもっとも適当と思われる原理にもとづき、そのような形で権力を形づくる新しい政府を設けることが人民の権利であること。」
- (4) 「現在のイギリス王の歴史はたび重なる侮辱と権利侵害の歴史である。」



「アメリカ独立宣言」に署名する起草委員

独立宣言は、1776 年 7 月 4 日、フィラデルフィアのインディペンデンスホールで採択された。現在でも 7 月 4 日は、アメリカ合衆国の特別な祝日である。中央に立っている 5 人のうち、一番右がフランクリン、その隣りがジェファソン、一番左がジョン=アダムズ。



トマス=ジェファソン
ヴァージニアのプランター出身で、アメリカ独立宣言を起草した。後に第3代大統領。



フランクリン
風の実験により、雷が電気であることを明らかにした。このときなぜ感電死しなかったのか、いまだに謎である。